

平成26年度 第2回企画展(阿仁伝承館・秋田大学連携展)

秋田古銭物語

阿仁の鉦山ヤマが生んだ貨幣カネ

◆ご来館の折、家に眠っている古銭を
鑑定してみませんか？

《鑑定日》8/2(土)・8/24(日)

鑑定者…秋田貨幣研究会



加護山製鍊所絵図(畑中家蔵)

江戸時代のお金が勢揃い !!

一両の価値を一文銭で体験してみよう！

加護山製鍊所絵図(資料提供：能代市教育委員会)



秋田銀判(九匁二分)



秋田鑄銭



秋田波銭



秋田銅山至宝

期 間

平成26年7月24日(木)13:30 ~ 8月31日(日)

展示会場

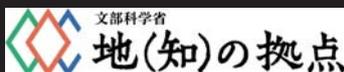
阿仁郷土文化保存伝承館

北秋田市阿仁銀山字下新町41-22
TEL 0186-82-3658

開館時間 / 9:00~17:00 (月曜休館)

入館料 / 大人400円 高校・大学生 300円 小・中学生 200円

(団体20名以上 それぞれ100円引き ★北秋田市内の小・中学生は無料)



主催 阿仁郷土文化保存伝承館
秋田大学鉦業博物館

共催 秋田大学北秋田分校
秋田大学COC事務局
秋田貨幣研究会

後援 北秋田市
北秋田市教育委員会
秋田内陸縦貫鉄道(株)

第2回 企画展「秋田古銭物語」

～阿仁の^{ヤマ}鉱山が生んだ貨幣～

開催期間 7月24日（木）13：30～ 8月31日（日）まで



▲秋田銀判（四匁六分）



▲寛永通宝（加護山銭）



▲天保通報（加護山製）



▲秋田一分銀

◎貨幣と金属の歴史

■古代から、金・銀・銅は、貨幣として用いられ、素材そのものに価値があるとされてきました。■中世の西洋では、領主の特権をシニョリッジ (seigniorage) といい、鉱山採掘権および貨幣発行益などが認められてきました。■領主は、金・銀・銅の鉱山を開発し、貨幣を発行することで、富と権力を得ることができました。

◎秋田の鉱山開発

■日本でも、戦国時代には全国各地の領主が、こぞって鉱山を開発し、貨幣を発行しました。■これからは領国貨幣といわれ、秋田にも「切銀（きりぎん）」とよばれる貨幣が、院内银山や阿仁鉱山などで生産されました。■江戸時代には、秋田藩によって阿仁鉱山の開発が進められ、銅の生産量が日本一となりました。

◎江戸幕府による貨幣の管理

■江戸時代になると、幕府によって貨幣の铸造は厳しく管理されました。■秋田藩でも、阿仁鉱山の銅・銀は、銀を含む荒銅（粗銅）として、大阪の銅吹所（製錬所）へ出荷するだけになっていました。

◎秋田藩による貨幣の密造

■秋田藩では、極秘に製錬所の開発を進め、1775年には、阿仁鉱山の近くに加護山吹分処（製錬所）を建設し、純度の高い銅、銀が生産できるようになりました。■幕府の権力が衰えた幕末期には、各藩で貨幣の密造がおこなわれるようになりました。■秋田藩でも阿仁鉱山から生産される銅・銀を用いて、加護山吹分処で各種の貨幣が大量に密造されていました。

◎第2回 企画展のみどころ

■今回の企画展では、阿仁鉱山と加護山吹分処で製造された貨幣や江戸時代の貨幣について解説します。■また、貨幣の原料、製造法、貨幣の交換価値などについても解説します。